

事業のタネシート

活動地域・団体名：徳之島地区自然保護協議会

事業名称 1：世界自然遺産“徳之島”島まるごと体感ツーリズム事業

あらすじ

豊かな自然が色濃く残る徳之島は、2021年世界自然遺産登録が期待されている。登録後には、自然遺産の地を訪れようと多くの観光客が来島することが予定されている。しかしながら、これまで年間観光客が10万人前後だった徳之島においては、受け入れ体制の未整備な部分が多く、特に体験コンテンツの少なさが島内・島外から指摘されている。

ストーリー

世界自然遺産“徳之島”島まるごと体感ツーリズム事業では、地域の様々な団体が集い、観光事業者と漁業・農業といった多様な関係者が連携し、地域に残る縦割りを打破し、観光受け入れ体制の強化を図る。テーマとして「自然と文化に向き合い、人生を豊かにする上質な時間を過ごす旅の提供」を掲げ、地域に色濃く残る自然や文化などのツールを活かし、富裕層・長期滞在者をターゲットに体験型ツアーの造成・提供を行う。長寿・子宝の島にふさわしい体験型コンテンツを作り上げることで、リピーターやファンを生み出し、世界自然遺産登録を契機とした地域循環共生圏の確立を図る。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	他の観光地とは違い、「人生を豊かにする上質な時間を過ごす旅の提供」を合言葉に、島では地域住民による希少種の保護活動や文化の継承活動が盛んに行われており、地域が一体となった観光施策が実施されている。	<p>・情報の共有化・一元化、コンテンツの造成を図る必要がある。</p> <p>・各事業主体が集い、島をまるごと活用したアドベンチャーツーリズムの推進を目的に、自然・文化・観光全体を統括した基本計画を策定する必要がある。</p>
②課題	類い稀な生態系・生物多様性を有しながら、その魅力が埋もれている、発信できていない 豊富なコンテンツを備えていながら、個別の情報発信を行っており、島全体を活かしたビジネスビジョンがない	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	世界自然遺産“徳之島”島まるごと体感ツーリズム事業を行うことで、地域の人々が地域の魅力を再認識するとともに、豊かな自然や文化が継承されていききっかけとなる。	
④地域資源	ここだけにしかない希少種・固有種、豊かな自然、自然と共に暮らしてきた文化、地域のもので活かした食・体験等	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	自然と文化に向き合い、人生を豊かにする上質な時間を過ごす旅	
⑥担い手 (Who)	漁師・農家、加工業者、エコツアーガイド、観光連盟、地元公共団体	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	①多様な関係者が集うことで島全体での情報共有が進む ②観光客受け入れの体制が構築され、広く発信 ③国内旅行者、インバウンド受け入れが進み、地域全体が恩恵を受ける	○株式会社 J T B 総合研究所 國谷 裕紀 ○岩浅有記 (大正大学地域構想研究所准教授令和3年4月1日就任予定)
⑧事業で生じる成果	短期的な効果：複数の体験コンテンツの造成、発信 長期的な効果：地元への就職者増、関係人口・交流人口の増加	ほか

事業名称2：世界自然遺産“徳之島”ブランド創造事業

あらすじ

アマミノクロウサギは、世界中で徳之島と奄美大島だけに生息する固有種で、世界自然遺産候補地である徳之島のシンボルになっています。2004年には、徳之島の出の生息数は推定200頭とされていましたが、生息地の林道に入る車を制限したり、天敵である肉食性外来種から守る対策を行った結果、少しずつ個体数が増えてきました。

個体数の増加を喜ぶ一方で、アマミノクロウサギによる農作物の食害が近年問題になっています。そんな中、徳之島では農家さんとアマミノクロウサギが共に暮らせる共生を目指した取り組みが始まっています。

ストーリー

アマミノクロウサギが訪れる農園で育った作物ブランド化事業では、世界中でもこの地域だけにしか生息していないアマミノクロウサギが訪れる農園で育った作物を、自然環境に配慮した農法によって生産された安心・安全な作物としてブランディングすることで、一般的に販売されている作物との差別化を図ります。

具体的には、減農薬や赤土流出対策などの環境配慮基準を設けるなど地域認証制度を創設し、認証を受けた畑で生産された商品にラベルを付与することで購入者の販売意欲を高めます。

また、エコファーマーやGAPの取得を推進し、減農薬や無農薬にこだわった農法を普及することで希少種などの生息域を拡大する取組みを推進します。

販売利益の一部を自然環境保全費(河川・里山保全費)に充てることで、地域経済の潤い、新たな雇用、環境の向上が期待できます。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	・島内で生産される作物の全てがGAP(農業生産工程管理)制度によって生産され、世界自然遺産地域にふさわしい安心・安全な農作物が生産される島となっている。	・他地域で行われている環境に配慮した手法等で生産される畜産・農産物の価格、市場ニーズの把握 ・認証制度を利用したことによる環境影響評価の可視化
②課題	・誰もがチョイスしたくなるブランディング(認知、意義)	
③なぜこの事業をやるのか(Why)	・生産効率の向上を求めるあまり、過剰な農薬利用による土壌・河川環境の汚染が危惧されている事から、地域認証制度やその他認証制度の取得を推進することで自然環境の保全を図る。	
④地域資源	・島内農産物 ・島内農産物を加工した飼料等によって育てられた畜産	
⑤商品・サービスの具体的な内容(What)	・自然環境に配慮した農法によって生産された農作物 ・アマミノクロウサギが訪れる農園で育った農作物	
⑥担い手(Who)	農家さん、道の駅などでの販売事業者	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	①環境に配慮した農法が普及することで自然環境が良くなる ②自然環境が良くなることで、希少種の個体数が増加 ③希少種が増えることで、観光客が増加	・他地域で行われている第三者認証制度を立ち上げた人物
⑧事業で生じる成果	短期的な効果：地力回復、生産農家の環境保全意識向上 長期的な効果：農家利益向上により後継者不足の解消、関係人口・交流人口の増加	・JGAP一般社団法人日本GAP協会 ・農家ハンター